

美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

目的 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待されるであろう。

成果 ○螺鈿及び漆器類に関わる調査研究等

- ・2020(令和2)年9月9日に個人蔵伏彩色螺鈿箱について保存科学研究センターほか調査担当者で研究協議を行った。10月29日に東京国立博物館にて中国螺鈿漆器の調査を東博研究員の立会いで行った。2021(令和3)年3月15日に都内にて個人所蔵螺鈿漆器ほかの調査を行った。

○研究成果公開

- ・10月10日より12月13日まで大分県立埋蔵文化財センターにて開催された、令和2年度企画展「BVNGO NAMBAN—宗麟の愛した南蛮文化—」において、出品・図録作成に協力したほか、10月10日にはオープニング記念講演会において「キリスト教の布教と南蛮漆器—理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から—」と題し、この展覧会の展示内容と相関する講演を行った。また、この講演内容についてまとめた資料集が同センターから発刊された。

11月24日開催の第5回文化財情報資料部研究会において武田恵理氏が「初期洋風画と幕末洋風画、形を変えた継承—日本における油彩技術の変遷と歴史的評価の検証—」と題し発表を行った。

○研究データの整備と公開

- ・1965(昭和40)年の発行で230号までの掲載であった『美術研究総目録』を補完し、431号までの内容を一覧にした『美術研究』PDF版総目次を11月に当研究所総合検索及び刊行物リポジトリ上において日本語版・英語版を同時にインターネット公開し、利用者の便宜促進を図った。また、検索用キーワードの抽出作業を実施し、今後整備のうえ公開し、文献検索と発見便宜性をより向上させる計画である。

報告・小林公治：「キリスト教の布教と南蛮漆器—理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から—」『BVNGO NAMBAN—宗麟の愛した南蛮文化—』オープニング記念講演会資料集 pp.1-14 20.10

発表・小林公治「キリスト教の布教と南蛮漆器—理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から—」(「BVNGO NAMBAN—宗麟の愛した南蛮文化—」企画展オープニング記念講演会 20.10.10

- ・武田恵理：「初期洋風画と幕末洋風画、形を変えた継承—日本における油彩技術の変遷と歴史的評価の検証—」文化財情報資料部研究会 20.11.24

研究組織 ○小林公治、小林達朗、二神葉子、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘、倉島玲央(以上、保存科学研究センター)、中野照男、田所泰(以上、客員研究員)、



大分市能楽堂にて開催された講演の様子